

令和4年度佐賀大学一般選抜入学試験 個別学力試験

科目： 国語（教育学部・前期）

1. 出題意図

1 科目全体の出題意図

本年度も現代文、古文、漢文から各一問ずつの出題とした。どの問題も高等学校で学習する内容（高等学校学習指導要領に示された指導事項）から出題し、国語の基礎的知識とその応用力を問うものとした。

現代文は、コロナ後の世界をどう生きるかを論じた二編の評論を題材とし、漢字や語句の理解力、文章の解釈や自分の考えの形成に関わる思考力、読み取ったことを適切に構成し記述する表現力を問うことを意図して出題した。

古文は、中世の軍記物語を題材として、主語や文法事項など高等学校で学習する基本的な事項を習得しているか、登場人物の心情や行為の理由など内容を正確に読み取ったうえで読解する力が養われているか、などを問うことを意図して出題した。

漢文は、志怪小説を題材とし、高等学校までに学習する漢語語彙の読み方や意味を理解しているか、基礎的な漢文句型の訓読と解釈ができるか、また文脈の流れや全体の主旨を正確に把握できるか、などを問うことを意図して出題した。

2 設問ごとの出題意図

【一（現代文）】

現代文は、コロナ後の世界をどう生きるかを論じた二編の評論（柴田悠「〈不可知性〉の社会」、大澤真幸「もうひとつ別の経済へ」）を題材とし、漢字や語句の理解力、文章の解釈や自分の考えの形成に関わる思考力、読み取ったことを適切に構成し記述する表現力を問うことを意図して出題した。

【二（古文）】

古文は、鎌倉時代の軍記物語『曾我物語』を題材として、高等学校で学習する文法事項や主語の確定などの基礎力を問うとともに、内容理解に関わる設問を設け、正確に内容を読解する力を問うことを意図して出題した。

【三（漢文）】

漢文は、『搜神記』所収の志怪小説を題材とし、漢文に関わる必要な基礎知識を習得しているか、またその知識を活用して平易な文を読み解き、文脈の流れや全体の主旨を把握できるか、などを問うことを意図した。

2. 問題訂正

・7ページ 問四

誤) (1) 「その非—現実のイメージ」が「理想」から「虚構」へ、そして「不可能性」へと変遷していった」とは・・・

正) (1) 「理想」から「虚構」へ、そして「不可能性」へと変遷していったとは・・・

・10ページ 問四

誤) (1) 「なれにし雲の上」とは・・・

正) (1) 「なれにし雲のうへ」とは・・・